アルミ圧延4社の19年3月期
日軽金HDのみ増収増益

アルミ板圧延メーカー4社の19年3月期連結決算がこのほど出そろった。米中貿易摩擦の激化によってアルミ圧延品市場には停滞感が広がったが、加工品比率を高めている日本軽金属ホールディングスは増収増益を達成した。一方でUACJや神戸製鋼所（アルミ・銅事業部門）など素材での販売比率が高い企業は、国内での販売数量減少や原燃料価格の上昇が重しとなり3社が経常減益（昭和電工アルミニウムセグメントは営業利益）だった。20年3月期業績については国内景気減速を背景に各社が厳しめの予算を公表。神戸製鋼所アルミ・銅事業部門はコスト高により赤字予想となった。

経常減益となったのはUACJや神戸製鋼。アルミ地金価格が下落したことによる販売価格の低下に加え、エネルギーコストの上昇が各社の収益を圧迫した。個別ではUACJは米国・タイでのアルミ板販売量の増加効果はあった一方で、国内販売は缶材や厚板が振るわなかった。また設備トラブル対策費など利益下押し要因が発生した。神戸製鋼は販売数量減に加え、品質事案に絡んだ保障費用なども計上したため経常赤字に転落した。昭和電工はアルミ地金高がアルミ缶の国内事業のコスト高につながり減益だった。

一方で増収増益の好決算だったのは日本軽金属HDのみだった。日軽金HDは他社同様にアルミ板や押出事業を手掛ける部門は販売数量の減少や原燃料価格の上昇などを背景に減益となった。しかしながらアルミナ・化成品部門の価格改定の進展や高機能製品の販売増、自動車用アルミ二次合金の拡販に加え、パネルシステムや炭素製品、電子材料など各種加工品部門が利益を底上げした。東洋アルミニウムも箔やパウダー・ペースト、ソーラーなど各部門が増益だった。なお三菱アルミニウムは今年から業績を非開示としている。

今期予想についてはUACJが増益予想とした一方、日軽金HDと神戸製鋼は減益とした。各社がアルミ地金価格の下落やエネルギーコストの高止まりが続くと見込んでいるが、予想は分かれた。

UACJは、前期に実施した加工賃値上げの効果やコストダウン効果に加え、タイ拠点の業績改善と撤退した米国自動車パネル拠点の費用負担がなくなることなどで大幅減益となった前期からの回復を目指す。昭和電工も増益見通し。日軽金HDは米中貿易摩擦の先行きや消費税増税による影響が不透明な中、板・押出製品販売の停滞感などを映して小幅減益を予想。神戸製鋼は在庫評価や償却負担の増加、品質関連コストが膨らみ赤字拡大を予想。しかしながら下期でみれば5億円の経常黒字になる見通し。

アルミ圧延4社の19年3月期連結決算

（単位：百万円、カッコ内は前年同期比増減%、上段は前期業績、下段は今期予想、▼は減または赤字）

	売上高	営業利益	経常利益	純利益
ＵＡＣＪ	661,330(5.9)	14,868(▼49.1)	6,201(▼68.0)	1,116(▼90.9)
	710,000(7.4)	17,500(17.7)	11,000(77.4)	3,500(3.1倍)
日本軽金属ＨＤ	500,451(3.9)	30,052(0.5)	31,084(5.3)	20,560(14.1)
	510,000(1.9)	31,000(3.2)	30,500(▼1.9)	20,000(▼2.7)
神戸製鋼所	359,000(2.7)	－	▼1,500(－)	－
	－	－	▼4,500(－)	－
昭和電工	108,300(2.8)	4,900(▼26.9)	－	－
	110,000(1.6)	5,500(12.2)	－	－

※神戸製鋼所はアルミ・銅事業部門、昭和電工はアルミセグメントの18年（1～12月）実績と19年予想

ダイヘンと大阪大学
溶接・接合協働研究所を設立

ダイヘンは6日、大阪大学と共同で「ダイヘン溶接・接合協働研究所」（大阪大学接合科学研究所内）を設立したと発表した。溶接・接合分野における高機能化・高能率化に貢献する革新的な接合技術の研究開発推進や世界トップレベルの技術力を持つ人材育成を推進する。

「ダイヘン溶接・接合協働研究所」は大阪大学接合科学研究所内に設置した。設置期間は今年4月1日から2022年3月31日まで。所長には大阪大学接合科学研究所の井上裕滋教授が就いた。アーク物理現象の本質的な理解と溶接冶金学的観点からの接合メカニズムの解明および信頼性の予測・評価による溶接プロセスの効率・性能向上と適用範囲の拡大に向けた研究開発や、世界トップレベルの新接合技術の確立・可視化技術を応用した溶接法の高機能化に向けた研究開発に取り組む。

溶接・接合業界においては、熟練技能者の減少や溶接工不足などにより、溶接・接合分野ではさらなる生産性向上と脱技能化が求められている。また自動車業界では燃費の向上、CO^2排出量の削減などを目的に車両の軽量化が進められており、鉄鋼材料や非鉄金属、樹脂といった異種材料同士を接合する、より高度な接合技術の実用化ニーズが強まっている。こうした中、ダイヘンが持つ溶接・接合技術やデバイス開発技術と、大阪大学接合科学研究所がもつ世界トップレベルの学術研究を融合させ、溶接・接合分野における高機能化・高能率化のニーズに貢献する革新的な接合技術の研究開発を推進することを決めた。今後は両者が共同して最先端技術の創出やその技術の早期実用

8月に鉄道車両で講演会

アルミ協会

日本アルミニウム協会・アルミニウム車両委員会は8月2日、東京・大井町の品川区立総合区民会館（きゅりあん）で講演会「アルミ車両　技術と情報」を開催する。定員は250人で参加費無料。申し込みは7月26日までに申込書を同協会へメールまたはFAX。講演プログラムは次の通り。

▽次世代新幹線の実現に向けて～これまでの研究開発と新幹線高速試験電車「ALFA－X」～＝浅野浩二氏（東日本旅客鉄道JR

海外非鉄週況

（6月3～7日）

▼銅＝直物は週間ベースで10・75ドル安、3カ月物は32・75ドル安と、それぞれ8週続落した。

米中の貿易摩擦をめぐる懸念が引き続き市場を覆っている。銅は4月中旬以来の弱地合いで、6500ドル圏から5800ドルを割り込む水準に低下。欧州の成長鈍化にも圧迫され、相場反転の兆しはなかなか見えてこない。

LME週間推移

現物・3カ月先物とも前場終値＝公式価格
単位：トン当たりドル、日付はロンドン現地時間

【2019年6月3～7日】

		現物		3カ月先物		確定出来高
		【買値】	【売値】	【買値】	【売値】	
銅（グレードA）	3日	5,795.50	5,796.00	5,819.00	5,820.00	183,845
	4日	5,803.00	5,804.00	5,826.00	5,827.00	140,130
	5日	5,832.00	5,832.50	5,859.00	5,859.50	154,952
	6日	5,804.00	5,805.00	5,822.00	5,823.00	133,533
	7日	5,769.00	5,770.00	5,785.00	5,785.50	154,516
錫	3日	18,950.00	19,000.00	18,725.00	18,775.00	3,941
	4日	19,225.00	19,250.00	18,915.00	18,935.00	12,588
	5日	19,105.00	19,110.00	19,095.00	19,105.00	5,282
	6日	19,100.00	19,110.00	19,000.00	19,050.00	3,849
	7日	19,625.00	19,630.00	19,475.00	19,480.00	3,463
鉛	3日	1,790.50	1,791.00	1,797.00	1,799.00	72,523
	4日	1,833.50	1,834.00	1,835.00	1,836.00	84,008
	5日	1,880.50	1,881.50	1,864.50	1,865.50	71,373
	6日	1,944.00	1,945.00	1,903.00	1,904.00	89,214
	7日	1,836.50	1,837.00	1,835.00	1,840.00	83,948
亜鉛SHG	3日	2,614.50	2,615.50	2,473.00	2,478.00	179,747
	4日	2,635.00	2,636.00	2,484.00	2,484.50	197,789
	5日	2,604.50	2,605.50	2,462.00	2,462.50	142,742

銅・アルミ市況見通し

6月

橋本アルミ取締役
橋本 健一郎氏レポート

銅

4月の伸銅品生産は前年同月比で7・0%減の6万4960トンと5カ月連続で減少した。前年実績を超えたのは銅板や黄銅板など3品種にとどまり、銅条や銅管、黄銅棒は減少した。内需は5万4772トンで同5・1%減、輸出は1万188トンで同15・9%減だった。品種別では銅条が2万1610トンで同5・3%減、銅管は9201トンで同9・7%減、黄銅棒は1万5182トンで同6・7%減だった。

4月の銅電線出荷は同5・2%増の5万9600トンで、うち国内が同5・9%増、輸出が同18・6%増だった。

銅輸出は、電気銅が同24・8%減の3万3448トン、銅スクラップが同118・8%増の3万9596トン。

銅輸入は、電気銅が同139・7%増の4103トン、銅スクラップが同35・6%増の1万4210トンだった。

▽銅スクラップ景況予想

流通在庫は価格の急落や大型10連休前の手仕舞い売り、稼働日低下による発生減などの要因により、少ないとみている。

需要面では足元の生産状況が徐々に悪化しており、スクラップの発生は減少してきている。

米中貿易戦争により、世界景気は後退が懸念される。このためメーカーの購入意欲は低く、スクラップ販売は当面厳しい状況が続くだろう。

▽LME銅・為替予想

今月は米中貿易戦争、トランプ米大統領の訪英の動向に左右される。米中貿易では予想外に加熱の一途をたどっているが6月末のG20でいったん休戦になることを期待したい。

トランプ米大統領の訪英では次期首相候補のジョンソン氏との直接会談が予定されている。実現すれば、ジョンソン氏にとり最も重要な同盟国のトップとの緊密な関係を早くもアピールできることになる。

6月銅市況予想レンジ

ＬＭＥ銅セツルメント	5500～6000ドル	弱い
電気銅建値	62～70万円	弱い
為替（1ドル）	105～110円（1カ月間ＴＴＭ）	弱い

アルミ

4月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同3・0%減の16万6792トンで16カ月連続の減だった。生産量は板類が同2・3%減の10万4601トン、押出類が同4・1%減の6万2731トン。

4月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同0・6%減の6万8394トンで、5カ月連続のマイナス。出荷は同0・9%増の7万50トンだった。

▽アルミスクラップ景況予想

需要面では足元の生産状況が徐々に悪化してきた。このためスクラップの発生は減少してきている。メーカーの購入意欲は低いままであり、スクラップ販売は当面厳しい状況が予想される。

6月アルミ市況予想レンジ

ＬＭＥアルミ現物後場買い	1800～2000ドル	強い
スクラップ	マイナス5円～0円（前月最終価格より）	弱い
為替（1ドル）	105～110円（1カ月間ＴＴＭ）	弱い